

## 第36回 宇宙産業・科学技術基盤部会 議事要旨

1. 日時：平成30年2月20日（火） 13：30－15：00

2. 場所：内閣府 宇宙開発戦略推進事務局 大会議室

3. 出席者

(1) 委員

山川部会長、松井部会長代理、青木委員、上杉委員、下村委員、  
薬師寺委員、山崎委員、渡邊委員

(2) 事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

高田事務局長、行松審議官、山口参事官、須藤参事官、高倉参事官、  
佐藤参事官

(3) 関係省庁等

経済産業省製造産業局航空機武器宇宙産業課宇宙産業室長 轟田 将範  
文部科学省研究開発局宇宙開発利用課企画官 山之内 裕哉  
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構第一宇宙技術部門  
H3ロケットプロジェクトマネージャ 岡田 匡史  
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構有人宇宙技術部門  
国際宇宙ステーションプログラムマネージャ  
／有人宇宙技術センター長 若田 光一  
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構有人宇宙技術部門  
新型宇宙ステーション補給機プロジェクトマネージャ  
伊藤 徳政

4. 議事要旨（○：質問・意見等 ●：回答）

(1) H3ロケット詳細設計結果について

資料1-1に基づき文部科学省から、資料1-2に基づきJAXAから説明を行った。その後、以下のような意見等があった。

○「開発スケジュール余裕のさらなる確保」とは、具体的にはどのようなことか。

●例えば試験と試験の間の期間の段取りを工夫することにより効率化を図る、などである。

○キー技術は国産で行うとの方針があったが、変更はないか。

●方針に変更はない。重要な技術であるため難易度の高い部分はあるが、しっかりと開発していく。

(2) HTV-Xのプロジェクト移行について

資料2に基づきJAXAから説明を行った。その後、以下のような意見等があった。

○物資輸送という標準要求と発展化要求があり、標準要求の方を先に具体化していると認識しているが、発展化要求が出てきた際に手戻りが起こらないようにしていただきたい。

●標準要求の中でプラットフォームについても検討しながら進めており、引き続き手戻りの起きないように注意して開発を進めていく。

○ISSプログラム全体のコスト低減の観点からも、引き続き打上げ機数を含めて管理を行っていただきたい。

○適切なスケジュールマージンをどのように確保していく予定か。

●新しい技術要素に関する試作を早期に実施することや、フライトモデルの製作に早期に着手することで、早めにリスクを洗い出すことなどを考えている。

○先進的技術実証ができるだけ多く実施できるようにしていただきたい。

●HTV-Xの打上げを先進的技術実証の貴重な機会と捉えており、しっかりと取り組んでまいりたい。

### (3) 調達制度の在り方の検討について

資料3に基づき内閣府から説明を行った。その後、以下のような意見等があった。

○確定契約の導入や深化の実現に向けて取り組みを進めていただきたい。

○OWBS導入でコストもかかると思われるが、米国における導入の動機も含めて調査していただきたい。

### (4) 宇宙産業分野の人的基盤の強化について

経済産業省から宇宙産業分野の人的基盤に関する調査について説明を行った。その後、以下のような意見等があった。

○人材といってもスキルは様々であるため、人材像を絞っていくべき。

●産業分野ということもあり、今回は宇宙利用産業やベンチャーなど、伸びていく分野を中心に、ターゲットを絞って調査・検討を進めてまいりたい。

○各国の宇宙関連人材の動きも注視しながら、調査・検討を進めていただきたい。

### (5) その他

参考資料2、3及び4に基づき、事務局から報告を行った。

以上